

United Nations Development Programme

国連開発計画 (UNDP)



Empowered lives.
Resilient nations.



人々を力づけ、国々をたくましく
Empowered lives. Resilient nations.



国連開発計画(UNDP)

国連システムのグローバルな開発ネットワークとして

UNDPの概要

国連開発計画(UNDP)は、1966年、2つの国連技術協力機関の統合で発足しました。国連総会と国連・経済社会理事会の管轄下にある国連機関の一つで、ニューヨークに本部があります。現在、各国政府、国連機関、非政府組織(NGO)、企業などと協力しながら、170以上の国・地域でプロジェクトを実施しています。各国の人々と、グローバルな課題や国内の課題に対し、それぞれの国に合った解決策が見出せるよう取り組んでいます。国や人々の能力開発では、UNDPの幅広い分野における知見とパートナーシップが役立っています。

UNDPは、開発の目的は単に所得を向上するだけではなく、人が人としての尊厳にふさわしい生活を送るべく支援をすることであるという「人間中心の開発」を提唱しています。現在では、この「人間開発」に対する考え方が、国際社会に幅広く受け入れられ、開発援助における基本理念の一つにもなっています。また、2015年を達成期限とするミレニアム開発目標(MDGs)の達成、持続可能な開発目標(SDGs)の策定においても、重要な役割を果たしています。

UNDPは2014-2017年の戦略計画で、ビジョンとして「貧困の撲滅、不平等と排除の大幅な是正を同時に達成」を掲げ、以下の3つの重点活動分野、7つの成果目標を定めています。

3つの重点活動分野:

1. 持続可能な開発
2. 民主的ガバナンスと平和構築
3. 気候変動対策と強靱な社会の構築

7つの成果目標:

1. 貧困層や排除されている人々に雇用と生計をもたらす生産力の拡大をはかりつつ、包摂的かつ持続可能な成長と開発を実現する
2. より強固な民主的ガバナンス制度により、発言機会、開発、法の支配、説明責任を求める人々の期待に応える
3. 各国が基礎的社会サービス普及の着実な実現に向け、組織や制度を強化する
4. ジェンダー不平等の是正と女性のエンパワーメントの促進において早急な進展を実現させる
5. 各国が紛争の可能性を低減し、気候変動等による自然災害のリスクを軽減できるようになる
6. 紛争・災害後、早期復旧・復興と持続可能な開発プロセスへの速やかな回帰を実現する
7. 開発に関するあらゆるレベルの議論と行動において、UNDPの理念・方針に基づき、貧困、不平等と排除への取り組みを優先させる

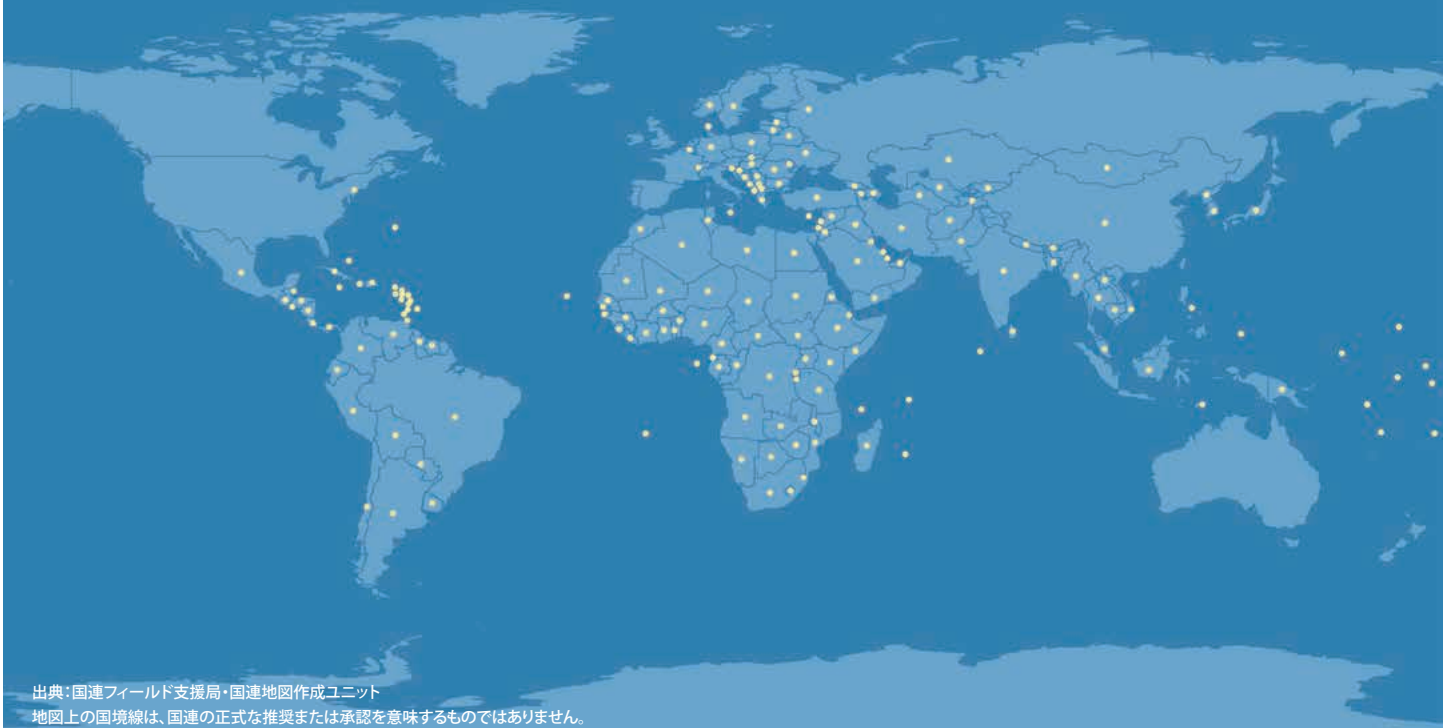
アヒム・シュタイナー

国連開発計画(UNDP) 総裁

2017年6月にUNDP総裁に就任。国連開発グループ(UNDG)の議長も兼務。2006-2016年に国連環境計画(UNEP)事務局長を務めるなど、持続可能な開発と国際協力の分野で30年以上に渡りリーダーシップを発揮。



UNDPが活動している国と地域



出典:国連フィールド支援局・国連地図作成ユニット
地図上の国境線は、国連の正式な推奨または承認を意味するものではありません。

UNDPと日本 —UNDPの活動は日本の協力によって支えられています

UNDPが世界の開発課題解決に向けて取り組むためには、各国政府、開発援助機関、民間セクター、市民社会、教育・研究機関等との連携が欠かせません。UNDPは、1) グローバルなネットワーク 2) 国連機関としての中立性 3) 国連システム全体の調整機能 4) 多岐に渡る活動と政策提言を合わせた包括的支援体制 5) 専門性と長年の実績などを生かし、パートナーと連携して持続可能な人間開発を推進しています。日本はUNDPにとって非常に重要なパートナー国であり、開発現場でのプロジェクト実施、政策提言、国際会議の開催など様々な協働をしています。

日本政府との連携

日本の政府開発援助（ODA）は、2国間援助だけでなく、国際機関を通じた援助も重視しています。2015年に閣議決定した開発協力大綱でも国際諸機関等との連携強化などを掲げています。UNDPは日本と重点分野を広く共有し、日本政府の拠出により平和構築や民主的ガバナンス等の分野で専門と実績を生かした開発をしています。2011年からは日本・UNDP戦略政策対話を定期的に開催し、共通する重点分野の開発課題について議論をしています。UNDPは「アフリカ開発会議（TICAD）」など、日本政府主導の様々な国際会議を共催しています。また、UNDPと国際協力機構（JICA）は2009年に連携強化のための覚書を締結し、定期協議を開催すると共に、連携して世界各地の開発現場でプロジェクトを展開して成果をあげています。

民間セクター、教育機関、メディア、市民社会等との連携

UNDPは日本においてSDGs達成のためのビジネスを包括的に支援する枠組みを構築し、50社を超える企業に提供しています。SDGs Holistic Innovation Platform (SHIP) では、現場で17の開発課題を抱える・取り組む人々と、SDGsに関心を持つ日本企業とを結びつけるエコシステムを構築し、官民の垣根を越えた多様なパートナーとともに各企業のビジネスモデル策定を

支援しています。また、メディア発信、プレスリリース・出版、各種イベント開催、講演・講義、コンサルテーション等を通じて、教育機関、メディア及び市民社会との連携に力を入れています。



写真左上：日本政府、UNDP等が共催した第6回アフリカ開発会議（2016年8月、ケニア）

写真右上：日本の民間企業と連携してケニアで実施した、緩速ろ過装置および水質浄化剤を活用した「浄水・農業振興ビジネスモデル」（2016年8月）

写真左下：若者へのSDGsの理解促進と当事者意識の醸成を目指して13の学生団体と企画・運営した「SDGs×Youth」イベント。約300名の若者が参加し、「私のSDGs行動宣言」を発表（2017年5月）

写真右下：将来を担う人材育成にも力を入れ、これまでに国内の9大学と教育連携を締結。講義やインターンシップ受け入れなどに尽力（2017年3月）

持続可能な開発目標（SDGs）

—アジェンダ2030



2015年9月に、国連総会の「国連持続可能な開発サミット」で、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）が採択されました。2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を実現するためのSDGsは、全ての国を対象とする国際社会全体の目標です。2016年から2030年にかけて世界が取り組む17の目標と169項目の具体的な達成基準を掲げています。目標には、持続可能な消費、技術革新、格差などの新しい課題も含まれています。途上国の開発課題が中心だったミレニアム開発目標（MDGs）に比べて、SDGsは先進国も自国での取り組みを求められる目標が多く盛り込まれています。

詳細は：<http://bit.ly/undpsdgs17>

人間開発報告書（HDR）

UNDPは1990年から人間開発報告書（HDR）を世界各国で発刊しています（日本語版は1994年から発刊）。毎年、時代に先駆けて「ジェンダー」や「人の移動」や「気候変動」など開発課題を提議し、各国の豊富な実証データを分析しながら、政策提言をしています。HDRでは1人当たりの国民総生産（GDP）、平均寿命、就学率などにに基づき指数化した「人間開発指数」を発表するなど、世界各国の豊かさをGDP以外で数値化し、統計資料としても幅広く活用されています。



人間開発報告書ウェブサイト

<http://hdr.undp.org>（英語）

<http://bit.ly/undphdr>（日本語）

人間開発報告書日本語版の販売について

1994年版-2006年版 UNDP駐日代表事務所（TEL: 03-5467-4751）

2007/2008年版以降 CCCメディアハウス（TEL: 03-5436-5701）

UNDP親善大使

国連開発計画(UNDP)は、日本の俳優・紺野美沙子氏をはじめ、グローバルな親善大使を任命しています。親善大使は、世界各地でUNDPや開発課題のアドボカシー活動に協力しています。UNDPの親善大使が中心となり始まったサッカー・チャリティー試合「貧困との闘い(Match Against Poverty)」はこれまでに全世界で計11回開催されています。



紺野美沙子 (日本) Misako Konno

1998年10月、UNDP親善大使に任命。これまでに、カンボジア、パレスチナ、ブータン、ガーナ、東ティモール、ベトナム、モンゴル、タンザニア、パキスタン、ケニアを公式訪問しました。また、2011年には東日本大震災を受け、東北の被災地を訪問しました。ほかにも、台風被害を受けたフィリピン、地震被害を受けたネパールの復興協力をしました。また、途上国における開発支援の活動や必要性を伝えるため、毎年全国各地の小・中学校やイベントで講演、朗読活動をしています。2008年にはUNDP親善大使としての10年間の活動を綴ったエッセイ『ラララ親善大使』(小学館)を出版、2009年6月には長年の国際協力分野における功績がたたえられ、外務大臣表彰を受けました。



ホーコン・マグナス王太子 (ノルウェー王国)

Crown Prince Haakon Magnus of Norway
ノルウェー王国王太子。UNDP親善大使として数多くの途上国を公式訪問し、近年ではハイチやネパールなどを訪れました。人間開発報告書書の業務にも貢献し、2007/08年の人間開発報告書の諮問パネル、2007年人間開発賞の委員を務めました。2003年10月に就任。



コニー・ブリットン (アメリカ)

Connie Britton

米国を代表する女優の1人。エミー賞を4度受賞した経験を持ちます。長年、貧困削減および女性の権利拡大を積極的に支援。2014年4月に親善大使に就任。



ディディエ・ドログバ (コートジボワール)

Didier Drogba

コートジボワール代表のサッカー選手。ロナウド、ジダンと共に、サッカーを通じたMDGsのアドボカシーキャンペーンに参加。2014年のFIFAワールドカップでは、マラリア撲滅のアニメ動画に出演。2007年1月に親善大使に就任。



ロカ兄弟 (スペイン)

The Roca Brothers

国際的な人気を博すスペインのシェフ、ジョアン・ロカ、ジョセップ・ロカ、ジョルディ・ロカの3兄弟。定評あるレストラン「エル・セジェール・デ・カン・ロカ」のオーナーを務め、レストラン・マガジン誌から2度にわたり「世界のベストレストラン」に選ばれました。2016年1月に親善大使に就任。



アントニオ・バンデラス (スペイン)

Antonio Banderas

世界的に活躍する俳優。UNDP等が主催した写真コンテストで審査員を務めました。2011年の「アフリカの角」の食糧危機や2012年国連持続可能な開発会議(リオ+20)の際には、動画メッセージを発信。2010年3月に親善大使に就任。



ミシェル・ヨー (マレーシア)

Michelle Yeoh

マレーシア生まれの女優。1997年公開の「007 トゥモロー・ネイバー・ダイ」への出演を機にハリウッドデビュー。アカデミー賞を受賞した「Crouching Tiger Hidden Dragon: ソード・オブ・デスティニー」など多数の映画に出演。2016年3月に親善大使に就任。



マルタ・ビエイラ・ダ・シルバ(ブラジル)

Marta Vieira da Silva

ブラジル代表の女子サッカー選手。2006-2009年、4年連続でFIFAの女子最優秀選手賞を受賞。2011年にはシエラレオネを公式訪問し、女性たちを激励しました。2010年10月に親善大使に就任。



ニコライ・コスター=ワルドー(デンマーク)

Nikolaj Coster-Waldau

HBOのテレビドラマシリーズ「ゲーム・オブ・スローンズ」で世界的に有名な俳優。特にジェンダー平等と気候変動による影響の軽減を中心に、SDGsを支援。2016年9月に親善大使に就任。



イケル・カシージャス (スペイン)

Iker Casillas

スペイン代表のサッカー選手。2010年のFIFAワールドカップで優勝。2011年、日本の東日本大震災を受けて、動画メッセージを発信しました。2011年1月に親善大使に就任。

■ UNDP駐日代表事務所

UNDP駐日代表事務所は1979年に設立されました。主に、1) UNDPの主要ドナー国である日本政府や国際協力機構(JICA)との関係強化、ニューヨーク本部や各国事務所との連携業務 2) 人間開発報告書や年次報告書など主要な出版物の日本語版作成、イベント等を通じた広報活動 3) 日本における市民社会や民間セクターとの連携推進をしています。

■ 世界で活躍する日本人職員

UNDPでは2016年10月現在、世界中で2344人の専門職員が勤務しています。UNDP全体の職員は7064人で、そのうち、中満泉UNDP危機対応局長をはじめ10人が幹部職を務めています。日本人職員の中には、日本政府から派遣されたジュニア・プロフェッショナル・オフィサー(JPO)17人が含まれます。



国連開発計画(UNDP) 駐日代表事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス8F

TEL: 03-5467-4751 / FAX: 03-5467-4753

ウェブサイト: <http://www.jp.undp.org>

<https://www.facebook.com/UndpTokyo>

<https://twitter.com/UNDPTokyo>

Empowered lives.
Resilient nations.